

御子に用ひたるなり、さるは遂に御位を嗣坐が、其御子等の中にて、元來も然定置賜へる物なれば、彼皇太子よく當りたれども、彼は元より一人に限りて定めたる稱、此は一柱には限らざる御稱なるは同じからず、異なることあり、さればひたぶるに太子の字には泥むべからず、上代のさまをよく考ふべきなり。

〔古事記上〕豐玉毘賣命○中白其父曰、吾門有麗人、爾海神自出見云、此人者、天津日高之御子、虛空津日高矣、

〔古事記傳十七〕虛空津日高、谷川氏、天津日高は天子の稱、虛空津日高は太子の稱なりと云り、信に然るべし、其故は、先邇々藝命、穗々手見命、鶴葺草葺不合命、みな天津日高と申せる、これ天津日嗣所知看せるうへの大御稱なり、かくて此は穗々手見命、いまだ皇太子にて坐ほとなるが故に、天津日高之御子と申せり、さて其を虛空津日高と稱す所以は、虛空は天と地との中間なる故に、天津日高に亞で尊み申す御稱なるべし。

〔日本書紀繼體〕七年十二月戊子、詔曰、盛哉勾大兄○安宜處東宮助朕施仁翼吾補闕、

〔日本書紀欽明〕二年三月、納五妃○中蘇我大臣稻目宿禰女曰堅鹽媛、生七男六女、其一曰大兄皇子、是爲橘豐日尊、○用

〔日本書紀皇極〕二年十一月丙子朔○中於是山背大兄王等自山還入斑鳩寺、

〔日本書紀孝德〕十五天豐財重日足姫天皇四年六月庚戌○中思欲傳位於中大兄○天而詔曰云云、

○按ズルニ、大兄ヲ以テ直ニ皇太子ノ稱トハ定メ難ケレドモ、古ヘ太子トナリテ皇位ヲ繼承セラル、皇子ニハ、多ク此稱アリシガ如シ、長等山風附錄、大兄名稱考ノ條ニモ、本語ハオホヒ子なるが、音の約りてオヒ子とも申し、又オホ子ともかよはして申し奉りたりしにて、書紀に十八どころに、同じ訓ざまを註して、なべて近世によみなれたるがごとく、オホエとよめるは